

第3学年〇組 道徳学習指導案

指導者

- 1 主題名 なかまにささえられて 中学年2-(3) 信頼・友情
資料名 「ぼくのいいところ」 (ぬくもり)

2 主題設定の理由

- 本主題は、「友だちと互いに理解し、信頼し、助け合う。」ことを主なねらいとしている。
中学年になり、自分の個性について考えられるようになってきたこの時期に、友だちのよさを認め、自分の個性やよさに気付かせる学習をして、自尊感情を高めさせ、お互いのよさを認め合うことは意義深いと考える。自尊感情とは、「ぼくは、こういうよさがあり、努力する。」という道徳的価値があり、その集合体と捉えている。また、それは高学年の「互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女仲よく協力し助け合う。」ことにつながっていくと考える。
さらに、このような自己肯定感・自尊感情を高めることについては、より早い段階より体験として取り入れ、信頼・友情の心情を育てることは大変意義深いと考える。
- 本学級の児童は、友だちとの遊びが活発になり、遊びの好みなどで特定の仲のいい友だちができてきている。また、学級の中で今まではあまり遊ばなかった友だちにも関心を示すようになり、交友の範囲が広がってきている。
さらに、身体の成長や、学習・運動の面などで自分と他の人との違いについて関心をもつようになり、自分の個性について考えることができるようになってきた。
その反面、1学期後半に行った生活アンケートの結果を見てみると、「このクラスが好きだ。」「友だちはやさしい。」の項目では、「ぜんぜんそうは思わない。」に○をつけている児童が数名いた。このことは、自尊感情がまだ身についていない表れだと思われる。そこで、このような時期に、友だちのよさを認め、自分の個性やよさに気づいていく学習をすることは、児童の自尊感情を高めたり、互いのよさを認め合う集団をつくったりする上で、大変重要であり、意義深いと考える。
- 本資料は、「自分のいいところ」について、はっきりとらえることができず、自分に自信をなくしかけていた主人公のケンが、友だちからの手紙や一緒にくらすおばあちゃんからの手紙によって、自分を見つめ、自分への自信を高めていく物語である。
本時指導にあたっては、導入段階で、自分で自分のよいところを五つもさがすのが大変なことに気付かせ、そんなにいくつも思いつけないというもどかしさから、めあてを意識化させる。
展開前段では、資料「ぼくのいいところ」を読んで、よさが二つしか書けなかったケンの気持ちと、導入での経験を重ねながら、自分では自分のよさにはなかなか気付かないことや、そのことのもどかしさなどを考えさせる。続けて、友だちからのメッセージを読んだ時のケンの気持ちに共感させていく。この時に「動作化」や「役割演技」等を取り入れる。
展開後段では、友だちが書いてくれた「自分のいいところ」の手紙を読むことにより、喜びの表情を大切に扱い展開していく。この体験は、自分のよさを自覚し、自分のよさを集団の中で生かしていこうという意欲につながると考える。終末では、ゲストティーチャーの話聞くことにより、自分のよさを見つめ、自己や他者を大切にする心情を高め、信頼・友情に対する意識の継続を図っていきたい。

3 本時のねらい

自分のよさを伸ばそうとする自尊感情を高めると共に、学級集団や友だちとの人間関係を大切にする心情や行動力を高める。

- 4 本時 平成20年11月19日(水) 第5校時 第3学年〇組教室に於いて

5 地域との関連(地域のひと・もの・ことの活用)

地域題材: ぬくもり 地域人材: 〇〇寺 ご住職

- 6 準備 掲示資料、道徳ノート、ストップウォッチ

7 展開

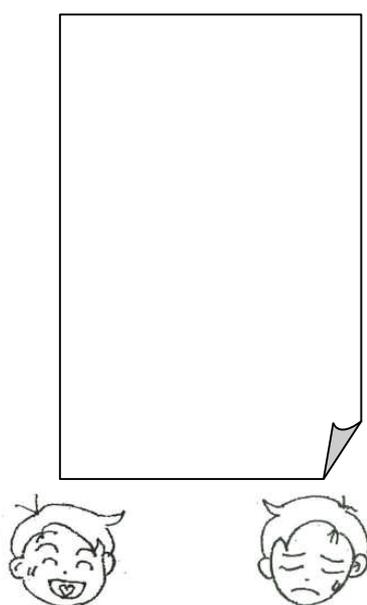
段階	学習活動	指導上の留意点
導入	<p>1 「自分のよいところ」を五つ考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分のよいところを五つなんて思いつかない。 ○ 一つ、二つくらいなら・・・。 <p style="text-align: center;">めあて</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 自分のいいところを見つけよう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分で自分のよいところを、五つもさがすのは大変なことに気づかせる。 ○ そんなにいくつもないというつらさを出させる。
展開前段	<p>2 資料「ぼくのいいところ」を読んで、話し合う。</p> <p>(1) 教師の範読を聞く。</p> <p>(2) よさが二つしかなかったケンの気持ちを考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> よさが二つしか書けなかったケンはどうな気持ちでしょうか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ むずかしいなあ。 ○ よさを見つけるのは大変だ。 <p>(3) 友だちからよさを見つけてもらったときの「ケン」の気持ちを考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 友だちからのメッセージを読んだケンは、どんな気持ちでしょうか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ うれしいなあ。 ○ 自分にもいいところがあったんだ。 <p>※道徳ノートに「ケン」の気持ちを書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教師の範読を通して、資料の概要をつかませる。 ○ ケンの気持ちと、1での経験を重ねながら、自分では自分のよさにはなかなか気づかないことや、そのことの難しさなどを考えさせる。 ○ 「ケン」の気持ちを共感的に理解させるために動作化を取り入れる。 ○ 「ケン」が友だちから書いてもらった時のうれしさについて語り合わせ、友だちのよさを味わっているケンの気持ちを十分に想像させるために、「掲示資料に着目させる。」「役割演技をする。」等を取り入れる。
展開後段	<p>3 自分の生活をふり返る。</p> <p>(1) 班の中で、「友だちのよいところ」を一人一つずつ書いていく。</p> <p>(2) 友だちからかいてもらった「私のいいところ」を本人が読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ めちゃめちゃうれしいなあ。 <p>(3) 手紙を読んだ感想を道徳ノートに書いて発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ うれしいことは発表できるよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 読んだ時の子どもの反応や、喜びの表情をほめたり、がんばりを認めたりしていく。 ○ 聞く人は、うなずいたり肯定的な反応をかけたりしてあげるよう、支援する。
終末	<p>4 ゲストティーチャーの話聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ どんな話だろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分のよさを見つめ、自己や他者を大切にする心情を高め、意識の継続を図る。

8 板書計画

めあて
 自分のいいところを見つけよう。

「ぼくのいいところ」
 ・病気をあまりしない。
 ・力が強い。

・むずかしいなあ。
 ・よさを見つけるのは大変だ。



・うれしいな。
 ・自分にもいいところがあった。
 ・友だちはいいな。

9 道徳ノート

どうとくノート
 三年 組 ()

めあて
自分のいいところを見つけよう

ぼくのいいところ

○友だちからのメッセージを読んだケンは、どんな気持ちでしょうか。

◎友だちから「自分のいいところ」を書いてもらおう。

◎読んだかんそうを書こう。

() へ

